

除草剤アリルオキシアルカノエート系、グリホサート及びグルホシネート耐性
ダイズ 44406 系統（飼料）に係る食品健康影響評価について

1. 経緯

遺伝子組換えダイズ「除草剤アリルオキシアルカノエート系、グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズ 44406 系統」（以下「44406 ダイズ」という。）については、平成 26 年 3 月 4 日付けで遺伝子組換え飼料の安全性審査の申請があったことから、食品安全基本法（平成 15 年法律第 48 号）第 24 条第 1 項の規定に基づき、食品安全委員会に食品健康影響評価を依頼するものである。

2. 評価依頼品種の概要

44406 ダイズには、アリルオキシアルカノエート系除草剤、除草剤グリホサート及び除草剤グルホシネートに対する耐性を付与するため、改変 *aad-12* 遺伝子、*2mepsps* 遺伝子及び改変 *pat* 遺伝子が導入されている。

Delftia acidovorans MC1 株由来の改変 *aad-12* 遺伝子によって産生される改変 AAD-12 タンパク質は、アリルオキシアルカノエート系除草剤を除草活性のない化合物に変換することにより、植物にアリルオキシアルカノエート系除草剤に対する耐性を付与する。

トウモロコシ（*Zea mays*）由来の *2mepsps* 遺伝子によって産生される 2mEPSPS タンパク質は、グリホサートによる影響を受けない。2mEPSPS タンパク質が、グリホサート存在下でも生長に必須の芳香族アミノ酸の合成を可能とすることにより、植物にグリホサートに対する耐性を付与する。

Streptomyces viridochromogenes 由来の改変 *pat* 遺伝子によって産生される PAT タンパク質は、除草剤グルホシネートを除草活性のない化合物に変換することにより、植物に除草剤グルホシネートに対する耐性を付与する。

3. 利用目的および利用方法

44406 ダイズの飼料としての利用目的や利用方法は、従来のダイズと相違がない。

4. 諸外国における申請等

申請国	申請・確認年月	申請先
オーストラリア・ ニュージーランド	2013 年 4 月確認	オーストラリア・ニュージーランド 食品基準局 (FSANZ)
カナダ	2013 年 6 月確認	カナダ食品検査庁 (CFIA)
米国	2013 年 12 月確認	米国食品医薬品局 (FDA)